

特集2 リゾート開発における諸問題

山口県リゾート開発構想 対象地域の植生概要

元山口女子大学教授
山口大学教養部非常勤講師

塩見 隆行

〈対象地域〉

山口県のリゾート開発構想は「第四次県政振興の長期展望」の中で新しい県づくり、地域づくりを推進するための重要なプロジェクトとしてとりあげられている。その対象地域として次の2地域が考えられている。

1 柳井・大島地域 県東部の瀬戸内海国立公園に含まれる地域で次の4地区に分けられている。(1)柳井地区(2)室津半島(3)大島大橋地区(4)橋・東和地区。

2 萩・長門地域 県北部の日本海沿岸地域とその背後の内陸部からなり、北長門海岸国定公園、西長門県立自然公園および長門峡県立自然公園が地域内に含まれており、次の8地区に分けられている。(1)油谷地区(2)長門(日置・三隅)地区(3)萩地区(4)阿武(大井)地区(5)須佐・田万川地区(6)十種ヶ峰地区(7)長門峡地区(8)福栄・むつみ地区。

〈植生〉

山口県は本州の西端に位置しその脊梁山脈は低く、最高峰でも玖珂郡錦町寂地山の海拔1,337mにすぎず西の響灘に至るに従い漸次低くなる。最西端の豊田町狗留孫山では海拔616mである。リゾート開発構想対象地域(以下リゾート地域という)内での最高峰は阿東町十種ヶ峰の989mで、海拔800m以上のブナクラス域にはわずかに十種ヶ峰の山頂部が入

るにすぎない。面積の大部分はヤブツバキクラス域に属する。

植生の解説に用いられている群落の種別や配列は主として環境庁自然保護局: 第2回自然環境保全基礎調査における植生図凡例一覧表(増補改訂案)1979を用いさらに新しい知見をも加えた。これはリゾート地域関係に携わる人々の便を考えての為である。

I ブナクラス域自然植生

1 クロモジーブナ群集

山口県ブナ林は海拔800m以上の山地に数箇所出現するが、いずれも山頂部に小面積を占めるに過ぎない。その代表的のものは寂地山にみられクロモジーブナ群集である。リゾート地域内では十種ヶ峰の南東斜面海拔900mにわずかに認められる。

II ブナクラス域の代償植生

2 クリーミズナラ群落

クリーミズナラ群落も非常に少ない。地域内では十種ヶ峰の南東斜面にわずかにみられるに過ぎない。

3 ササ草原

十種ヶ峰の海拔800mから山頂部にかけてチマキザサやチュウゴクザサからなるササ草原が形成されている。草原の中にはアカモノ、タンナトリカブトなどの

貴重植物が生育している。

III ヤブツバキクラス域の自然植生

4 サカキーウラジロガシ群集

海拔300～700mの角礫の多い山の斜面に出現する。自然林は少なく多くは二次林である。大島町文珠山の海拔400mにはタブノキの多い良好な林分がある。

5 イスノキーウラジロガシ群集

普通海拔300m以上に出現する。豊田町狗留孫山にはアカガシをもった本群集が形成されている（コガクウツギーモミ群集）。また萩市笠山の海拔20mの玄武岩塊堆積斜面にもみられる。

6 ケヤキ群落

内陸部の溪流沿いや海岸斜面に分布する。長門峡では溪流沿いにイロハモミジーケヤキ群集がみられ、上関町祝島では斜面に広く本群落が生じている。その他瀬戸内海側の光市牛島や防府市野島などにはマサキ、トベラ、ノシランなどをもった群落がみられる。

7 ムクノキーエノキ群集

河川堤防、荒れ地、岩塊堆積地、神社林などにみられる。笠山の山麓部の玄武岩塊地には林床がフウトウカズラで被われた群落があり、その中にはハマセンダン、バクチノキ、カカツガユなどの暖地性種が生育している。一方風穴地があつて海拔わずか20mでありながら、ツルネコノメソウ、ホソイノデなどの北方系の高等植物やエゾチョウチンゴケ、キヌヒツジゴケ、ハイスクバゴケなど高地性のコケ類が10数種類も生育している。

8 アラカシ群落

おもに内陸部の河川沿の急斜面などにみられる。自然林の残存は少ない。その組成にアラカシのほかシラカシ、ウラジロガシ、タブノキ、アカメモチ、サカキなどが含まれることが多い。

9 アラカシーナンテン群集

秋吉台や美川町根笠岩屋觀音などの石灰岩地に成立しナンテン、クスドイゲ、ビワ、コショウノキなどの存在により、アラカシ群落と区別される。リゾート地域には佐々連石灰岩地に存在する。

10 マテバシイ群落

マテバシイは県内では瀬戸内海側に点々と分布しているが、ほとんどは群落を形成していない。下関市六連島には本群落がわずかにみられる。

11 サカキーコジイ群集

海岸部から内陸部の丘陵や斜面に広く出現する。徳地町出雲神社の社叢には豊富な構成種をもった林分がみられる。その組成にはコジイ、サカキのほかツルマシリョウ、シイモチ、センリョウ、ナガバジュズネノキ、ニセジュズネノキなどが含まれる。本群集は岩国市城山、美祢市厚保神功皇后社、下関市住吉神社、山口市竜藏寺の樹林とともにルリミノキイチイガシ群集に入れられている。

12 ヤブコウジースダジイ群集

海岸部や内陸の斜面などのやや乾燥地にみられるが、種組成からは明らかな特徴をもたない。

13 ミミズバイースダジイ群集

ミミズバイの分布は中国地方では広島巌島の東限で瀬戸内側の海拔10～80mにかぎられる。本群集の残存林はきわめて

少ない。岩国城山、光市峨嶺山、山口市嘉川熊野権現、宇部市黒石八幡宮などにみられる。

14 ホソバカナワラビースダジイ群集

日本海岸、瀬戸内海岸の沿岸部の丘陵斜面のやや湿った立地には林床にホソバカナワラビ、コバノカナワラビをもつた本群集がみられる。県内のスダジイ群落としては最も普通である。次の亜群集に分けられる。東和町下田八幡宮、祝島三浦、笠山明神池、須佐町笠松神社の樹林はタイミンタチバナ亜群集、萩市指月山、下関市赤間神宮などの樹林は典型亜群集、熊毛郡佐賀白鳥神社、上関町上関八幡宮などの樹林はアリドウシ亜群集に属する。

15 ムサシアブミータブノキ群集

沿岸部の土壤が深く、湿度のやや高い立地には林床にムサシアブミをもつた本群集が成立している。下関市蓋井島、油谷町江の島、秋穂町竹島などには良好な林分が存在する。

16 イノデータブノキ群集

日本海岸部の沖積地や丘陵斜面にみられるが、その残存林は少ない。宇部市の丘陵部や秋吉台上の土壤の深い場所にはイノデを欠くタブノキ群落がみられる。

17 ウバメガシートベラ群集

ウバメガシは下関市六連島から以東の瀬戸内海沿岸に分布するが群落の規模は小さい。しかし大島郡にはかなりの群落がみられる。橘町安下庄龜島では純群落をなしており、県自然記念物に指定されている。

18 オニヤブソテツーハマビワ群集

ハマビワは下関市満珠・干珠島から日

本海沿いに分布し、海岸崖地やその下部の砂丘上に風衝型の本群集を形成している。蓋井島、油谷町、日置町、笠山、阿武町、須佐町などには良好な群落がみられる。

19 マサキートベラ群集

瀬戸内側から日本海側にかけて分布する海岸風衝低木林で自然海岸には普通である。第2回環境庁植生調査ではクロマツ群落は本群集に入れられた。

20 河辺ヤナギ低木群落

河川の上・中流部の岸や河川敷に形成される。上流部ではネコヤナギ群集が、中流部ではジャヤナギーアカメヤナギ群集が普通である。

21 キシツツジ群落

長門峠などの河川の上流部の増水線に沿って形成されている。県内には普通である。

22 カワラハンノキ群落

カワラハンノキは錦川、佐波川の上流や長門峠などにみられる。長門峠の組成にはキシツツジ、ヤシャゼンマイ、ショウジョウスゲ、カエデダイモンジソウなどがみられる。

23 ヨシクラス

河川下流の岸や河川敷、河口、池などに普通である。最近護岸工事などで減少している。セイコノヨシ群落はより乾燥した場所にみられる。防府市一帯に多い。

24 ツルヨシ群落

河川の上・中流の河底、河原などに普通である。最近河川の富栄養化で著しく増えた。

25 塩沼地植生

塩性湿地植物群落は最近河口の整備で著しく減少した。しかし由宇町、岩国市、大島郡橋町、平生町、田布施町、下松市、未武川、防府市、阿知須干拓、山陽町、萩市笠山、油谷町の各地にはホソバノハマアカザ、ハママツナ、ヒロハママツナ、ハマサジ、ナガミノオニシバ、フクド、シオクグ、シバナ、ウシオツメクサ、ウラギクなどからなる群落がみられる。

26 砂丘植生

自然海岸の減少で著しく貧弱になっている。各地で次の群落がみられる。ハマヒルガオーオカヒジキ群集、ツルナ群落、ハマグルマーコウボウムギ群集、ハマニンニクーコウボウムギ群集（阿武町木与、奈古、豊浦町神田、下関市筋ヶ浜）、コウボウシバ群落、ハマオモト群落（響灘沿岸に点々と分布、日置町二位の浜はハマオモトの日本海側の北限）。

27 海岸断崖地草本植生

次の群落がみられる。ダルマギクーホソバワダン群集（響灘から日本海岸）、ハマベノギクーチョウセンガリヤス群集（萩市見島、須佐）、ツワブキーノジギク群集（田布施以東）、チガヤーハマゴウ群集（各地）。

28 岩角地低木群落

大島郡の集塊岩の断崖地には次の群落がみられる。セトウチギボウシーイワシデ群落（大島町源明峰、上関町八島）、イワギリソウエイワヒバ群集（大島郡加納山、源明山）。

IV ヤブツバキクラス域代償植生

29 コナラ群落

コナラは一般に土壤の浅い貧養地に多

く、クヌギは土壤の深い富養地に多い。各地にみられるが群落の規模は小さい。ノグルミーアベマキ群落は大島郡に多い。

30 シイーカシ萌芽林

かつては雑木林として薪炭材や器具材などの供給源であったが、最近植林のため著しく減少した。スダジイ林は主として海岸部に、コジイ林は海拔300mぐらいまでの内陸部に、アラカシ林は海拔40－300m積雪のない地域に、シラカシ林は海拔300m以上の地域に、ウラジロガシ林は海拔20－600mの傾斜地に、アカガシ林は中部以西海拔300m以上の地域に多い。

31 ササ・タケ群落

ヤダケーメダケ群落とダンチク群落がみられる。前者は海岸断崖の風衝地や平野部の河川沿いに普通。後者は海岸砂丘の後方や断崖地に生育している。

32 ススキ群団

海岸部に小規模のものはあるが、秋吉台のような広大な草原はみられない。

33 シバ群団

乾燥固結した河川の堤防や人や家畜による踏みつけの大きい草地にみられる。各地に普通であるが群落は小さい。

34 コバノミツバツツジーアカマツ群集

海岸部から内陸部のヤブツバキクラス域の上限まで広く分布している。日本海側では海岸側の尾根を越えた内陸側から出現するのに対して、瀬戸内側では海岸に接して現れる所が多い。最近マツクイムシによる被害が内陸部にも深く入りつつあり憂慮されている。

35 ナンテンーアカマツ群落

秋吉台石灰岩地にはコバノミツバツツ

ジやヤマツツジを欠き代わりにナンテン、クスドイグをもったナンテンーアカマツ群落がみられる。リゾート地域には秋吉台のものほど顕著なものはないが、佐々連石灰岩地に小規模のものがみられる。

〈リゾート地域の自然環境〉

一般にリゾート地域の対象とされている場所は過疎地が多く、したがって自然植生に恵まれている。これを利用者側一辺倒の計画で乱開発を企てるならば著しい自然破壊につながるおそれが多くに考えられる。本県の場合も、瀬戸内海側の東部地方や日本海側沿岸には未だかなりの優れた自然を残している。今後の開発には十分自然環境の保全に留意すべきである。

文献

- 岡 国夫 (1951) 見島の高等植物目録 (予報)
山口大学農学部学術調査報告 No. 2
- 日野 巍 (1951) 国立公園候補地。長門日本海岸の概要山口県
- 日野 巍・岡 国夫 (1952) 山口県蓋井島の植物相 山口大学農学部学術調査報告 No. 3
- 同上 (1954) 山口県大島郡の植物相 同上 No. 5
- 同上 (1956) 同上補遺 同上 No. 7
- 日野 巍・勝本 謙 (1961) 山口県平郡島の植物相 同上 No.12
- 文化庁編 (1970) 天然記念物緊急調査 植生図・主要動植物図 山口県 國土地理院
- 岡 国夫ほか (1972) 山口県植物誌 山口県植物誌刊行会
- 環境庁編 (1975- 6) 自然環境保全調査報告

書一現存植生図・植生自然度図 国立公園協会

山口県 (1979) 第2回自然環境保全基礎調査 植生調査報告書

宮脇 昭編 (1983) 日本植生誌 中國 至文堂

著者略歴

氏名 : Takayuki Shiomi

学歴 : 九州大学農学部農学科 卒業

職歴 : 元山口女子大学教授

山口大学教養部非常勤講師

著書, 研究例等 : 山口県のコケとシダ 1982

山口県立山口博物館共著

秋吉台草原の現存植生図 1969

秋吉台科学博物館

勲三等瑞寶章 受章 昭和62年11月

委員 : 山口県自然環境保全審議会委員

山口県松くい虫対策協議会委員